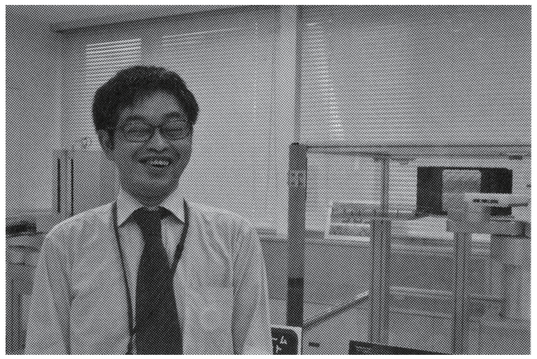
【働く方（方向）変革】ケース③ 地方の壁を飛び越える転職

地域の壁を飛び越え、自らの新たな人生を切り拓く好例があります。

愛知県から広島県にIターン転職



株式会社ジェーイーエル　搬送ロボット開発エンジニア　齊藤貴志さん（36歳）

大手技術派遣会社で電気設計エンジニアとして約12年。寝食の時間を惜しんで働いてきた齊藤貴志さんは、34歳になった時、ふと不安を覚えたそうです。派遣先は、超大手電機メーカーの大規模開発案件。しかし担当領域は分業され、仕様も既に出来上がった中での開発。全体を見通しながら、自らのアイデアを反映する裁量権がない。加えて、勤務時間も恒常的に長く、休日出勤も多く、時間に制約のない独身生活者でなければ、厳しい働き方だったと言います。

「このままでは、エンジニアとしてのキャリアも、家族を持つ展望も拓けない」。

そこで一念発起し、転職を決意。2016年1月、広島県とリクルートキャリアが開いたIターン・Uターン希望者向けの合同転職フェアに参加。そこで現在務めるジェーイーエル社と出会い、入社を決意されました。

ジェーイーエル社は、半導体ウェーハ・液晶ガラス基板搬送用のクリーンロボットメーカー。1993年の創業以来、高度な技術とカスタマイズ力を武器に、国内外に2,500社を超える取引を展開するニッチトップ企業です。福山を核に、東京、高知、台湾、韓国、中国、台湾、シンガポールとグローバル・ネットワークを展開・拡大する同社は、自動運転、AI、IoT、ドローンなど、半導体の旺盛な需要増を背景に、搬送ロボット開発エンジニアの中途採用を強化中でした。

齊藤さんは前職経験から、転職先を選ぶ際に二つのポイントを重視していたと言います。「一つは、裁量権があり、スキル向上が望める会社ということ」。

技術領域が、電気設計から制御ソフトウェアやネットワーク技術へと広がるにつれ、最新の技術知識を日々アップデートする必要性を痛感していたそうです。「最新の技術は、技術書を読む程度では身につかず、セミナーや勉強会などの研修機会に加え、実際のアイデアを試せる裁量権のある会社を望んでいました」。

そんな中、齊藤さんは、同社の技術部長との面談を実施。

「技術の詳細について、具体的な対話ができました。会社が今後ソフトウェアを強化するステージにあること。これまでの技術が活かせること。社内外の研修に積極的なこと。社歴に関係なく、新しい技術にも挑戦でき、エンジニアとしてさらなる成長が望めること。イメージが描けました」と振り返ります。

齊藤さんは、入社後も、新しい技術への挑戦の機会は多いと言います。

「例えば、現状の電気的なアナログ信号のON/OFFを組み合わせた単一の情報伝達から、前職で培った高速通信技術を応用した“複数の情報伝達が可能＝制御性の向上と複数情報の見える化が可能”となる製品の開発をチームに提案すると、すぐに、やってみよう！と声が上がります。以前なら、説明のために企画書を作り、書き直し、結局試せない。そんな無駄なパワーがいりません」。

顧客との仕様打ち合わせ、構想設計、詳細設計、部品選定、構成表作成、図面作成、概算コスト算出、生産後の立ち上げ及びサービス対応。分業ではなく、全体が見通せる醍醐味と裁量権を元手に、スキル向上を実感できていると言います。

齊藤さんが、転職先を選ぶ際に重視したポイント。もう一つは、「働き手の生活への重点を置いている会社」でした。

前職のような仕事漬けの働き方では、かえって仕事へのアイデアも枯渇してゆく。今度は、仕事も趣味も将来の人生も、充実したものにしたいと。実家が福岡である齊藤さんの希望勤務地の優先順位は、福岡、九州全域、広島、大阪、兵庫、愛知の順。西日本ターンを幅広いエリアで検討していたそうです。

そんな中、ジェーイーエル社の社員のライフ重視へのスタンスに出会います。

「残業時間の是正を会社として取り組み、残業平均月30時間であること。転勤なしであること。家族手当があること。将来、家庭を持つ希望が普通に持てること。そんな期待がいだけました」。

因みに、社名の「ジェーイーエル」は、仕事もプライベートも楽しむ充実した人生を、との想いを込めJob Enjoy Lifeの頭文字から名付けられたとのこと。

「親のいる福岡にも電車で通えるし、福山は、都会過ぎず田舎過ぎず、愛知よりコンパクトで暮らしやすいです。どこでも住めば都です（笑）。休日は電車で旅をしています。駅前が綺麗なことも気づくほど、心に余裕ができました。以前は、自宅と仕事場の往復で、全く気付きませんでしたから」。

今、齊藤さんは、まさにJob Enjoy Lifeを実現しています。